

三條橋さんでうのはしは東国より平安城へいあんじやうに至る喉口なり、貴賤の行人常に多くして、皇州の繁花は此橋上に見えたり、欄干には紫銅の擬宝珠十八本ありて、悉銘を刻。其銘に曰、洛陽三條之橋らくやうさんでうのはし、至後代一化二度往還人、磐石之礎入地、五尋切石之柱六十三本、蓋於二日域二石柱濫觴乎、天正十八年庚寅正月日、豊臣初とよとみ之御代奉増田右衛門尉長盛造ますだうゑもんのかみながもり之。